

展示の紹介

常設展示

矢巾町歴史民俗資料館展示室では

- 1 徳丹城コーナー
- 2 周知の遺跡コーナー
- 3 藤沢狄森古墳群コーナー
- 4 木製甕コーナー
- 5 琴天板コーナー

の5つのコーナーを設け、それぞれのコーナーで説明パネルや土器、木製品などの出土遺物を展示しております。

また、年1～2回の企画展・パネル展を開催しております。

徳丹城コーナー

徳丹城コーナーでは、812年頃に徳丹城がこの地に作られるまでの経緯や、城柵(古代の政務・軍事を兼ねた役所)の分布などの歴史に関することから、現在までの半世紀以上の長期にわたり実施されてきた発掘調査事業や史跡公有化事業などについて、パネルを用いて紹介しております。

また、発掘調査実施の結果、発見された数々の貴重な土器や木製品などが展示されています。中でも、外郭西門を調査した際に取り上げられた、「由北角柱」と刻まれた徳丹城の柱は見応えがあります。



周知の遺跡コーナー

周知の遺跡とは、城跡や古墳のように外形から判断できるもののほか、土器などの遺物が採取できたり、文献資料・伝説・学術的な調査などによって埋蔵文化財があると認められる土地をいいます。埋蔵文化財は、その土地の先人の歴史を知る上で貴重な資料であり、本来は現状のまま保存することに意味があるのですが、残念ながら工事や区画整理などによって破壊されてしまう場合には、事前に発掘調査を行い、遺跡全容を記録保存しておきます。

このコーナーでは、これまでの開発行為による発掘調査について紹介するとともに、発掘調査で出土した縄文土器や石器、古銭などの様々な資料を展示しております。



展示の紹介

藤沢狄森古墳群コーナー

古墳時代の7世紀後半の終末期古墳群の藤沢狄森古墳群は、現在までに、100基以上の古墳が発掘調査により確認されています。昭和32年には古墳群の一部が、平成21年10月2日には出土品1390点が岩手県指定有形文化財に指定されました。

このコーナーには、ガラス玉や勾玉等の玉類をはじめ多くの出土品を展示しています。



木製冑コーナー

木製冑は平成18年の第65次発掘調査において、遺跡の西側に発達する後背湿地で確認された工房施設群の井戸跡から出土しました。

前後長24.5cm、左右長20cm、高さ16.8cm、厚さ2cm、樹種はトチノキで、黒漆が薄く塗布してありました。放射性炭素による年代測定の結果、塗られた漆は7世紀後半のものと測定されました。

これは、徳丹城造営の9世紀から百数十年も古く、武具として徳丹城に持ち込まれた冑が水桶として転用されたものと思われます。

国内で唯一出土した「木製冑」をぜひご覧になってください。



琴天板コーナー

木製冑が出土した井戸の枠板の中で、東面の最下段に組み込まれていた枠板が琴天板から転用された材であることがわかりました。

天板の樹種はモミノキで、現長85.3cm、幅14.7cm、厚さ1~1.4cmあります。琴尾に本来存在した楕形(弦をひっかける爪)が切り落とされ、集弦孔の楕円形の穴を井戸枠を組む際に利用しています。

琴天板の現物の外、復元した琴も展示しています。



企画展示

矢巾町歴史民俗資料館では、不定期ではありますが、年1~2回ほど企画展示を行っています。